

(様式2)

令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名
30	宮崎中学校

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> 理想を高め、自主自律ある人間の育成 勤労を尊び、実践力ある人間の育成 豊かな情操を身につけた人間の育成 互いに人権を尊重し合える民主的人間の育成 国際的な視野に立ち、互いの文化を尊重できる人間の育成 	(1) 自ら学び、考える生徒の育成 (2) 人権尊重意識の向上・自主性を育成する教育の推進 (3) 開かれた特色ある学校づくりの推進 (4) 教職員の心の健康の維持に関する取組の推進	(1) 授業力の向上(一人一人を大切に授業づくり、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得) (2) 豊かな心の育成(人権尊重意識の向上、いじめ・不登校への対応の充実) (3) 地域・家庭への積極的な情報発信と課題の共有 (4) 働き方改革の視点での業務改善と教職員の意識改革

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1	一人一人を大切に授業づくり <ul style="list-style-type: none"> 新しい学習指導要領の全面実施を控え、趣旨に則った授業改善と学習評価に関する研修の実施 環境面での工夫、視覚化・焦点化、グループ学習による共有化に重点をおいた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の川崎市の研究推進校となり、新しい学習指導要領の趣旨に則った、学習指導及び学習評価に関する研究を国語科を中心に進めた。11月には中間報告を実施し、参観者から高い評価を得た。 若手教員が多い理科の授業研究を指導主事を招き実施した。感染症拡大防止に即した実験の進め方や新学習指導要領の趣旨に即した学習評価に関する研修を実施した。また、学習評価の観点が大きく変わる英語についても指導主事を招き、授業公開と評価に関する研修を実施した。道徳についても、2年目研修を兼ねて指導主事を招き授業研究を実施した。 <p>川崎市学習状況調査の結果を見ると、「学習は好きですか」、「学んだことは、生活の中で役立っていますか」という、好感度、有用感に関する質問に対する、生徒の回答状況は5教科ともに、川崎市全体の状況と比較すると良好であるといえる。 「勉強をすることは大切なことだと思いますか」という質問に対しての肯定的な回答が98%であるのに対して、「勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答は半数以下となっており、大切と思う気持ちを「好き」につなげる指導について改善していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲については、生徒の意識調査からは、概ね良好な状況といえる。今後も、研究授業等、研修の機会を設け、授業改善に努める。 各教科の学習評価について、評価の観点等、大きく変更するので各教科において評価方法に関する情報の収集と研鑽に努め、適切な評価を実施する。
2	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 <ul style="list-style-type: none"> 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 英語、数学においてTTによる指導を実施した。 放課後の学習室での学習会の充実(職員室前に予定表を掲げ、全教員が月に1度以上補充学習を実施した) <p>川崎市学習状況調査の結果を見ると、「授業はよくわかりますか」という質問に対する生徒の回答状況は川崎市全体の状況と比較すると良好であると言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の確実な習得について、生徒の意識調査からは概ね良好な状況といえるが、保護者アンケートからは学力の向上について不安を抱いている割合が半数近くであり、面談等で保護者と生徒の学習状況に関する情報の共有に努める。
3	人権尊重意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の行事や委員会活動の実施 かわさき共生＊共有プログラムの効果的な活用 人権尊重の意識の向上を目指した講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大の影響から多くの行事が中止となったが、各種委員会活動や生徒総会等について生徒主体の企画運営を行った。 かわさき共生＊共有プログラムを計画的に実施した。 指導主事を招いての道徳の授業研究会、オンズバーソンを招いての人権教室講演会を実施した。 <p>川崎市学習状況調査の結果を見ると、「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や希望を持っていますか」「人の役にたつ人間になりたいと思いますか」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」「みんなで協力してやりとげ、うれしかったことがありますか」のいずれの質問についても、川崎市全体の状況と比較すると良好であるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動での生徒主体の企画運営の充実とともに、活動後のふりかえりの取組を推進する。 人権尊重に関する講演会等を次年度も企画・実施する。
4	いじめ・不登校への対応の充実 <ul style="list-style-type: none"> 生徒支援教育校内委員会の定期的な実施 学習室での個別対応の充実 不登校ハンドブックの教職員の内容の周知と活用 川崎市いじめ防止基本方針の教職員の周知と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒支援教育校内委員会を定期的(週1回)に実施し、情報交換及び対象生徒への支援方法の検討し実施した。 学習室の個別対応を計画的に実施し、教室に入れない生徒への対応に努めた。学習室には、ほぼ毎日、数名の生徒が来室し学習や読書、給食等、活動した。 不登校ハンドブック、川崎市いじめ防止基本方針に関わる職員研修を実施し、内容の周知と活用を努めた。 <p>いじめと認められる事案は発生しており、未然防止に今後も努める必要がある。不登校については、登校したときに丁寧な対応ができ、登校の継続につながっている。不登校生徒への対応を粘り強く継続したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針に則り、未然防止に努めるとともに、いじめが発生した場合、組織的な対応のさらなる充実を努める。 不登校生徒への対応について、他機関、SC、保護者との連携をさらに深め、不登校生徒数の減少に努める。学習室については今年度と継続して取組を進める。
5	GIGAスクール構想に則ったICT機器の積極的な活用 <ul style="list-style-type: none"> オンラインを用いた授業実践の推進 学校と家庭とをオンラインでつなぐ取組の推進 オンラインを用いた情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 分散登校時に、進度を早めることや歩調を合わせるために、全クラスをオンラインで結んだ授業を実践した。 国語科研究推進校として、中間報告時にオンラインを活用しての授業公開をし、今後の可能性等について意見交換をした。 感染症拡大防止のため、自宅待機を余儀なくされた生徒について、オンラインを用いての定期テストを実施した。 企業の協力を得て、オンラインを用いての職場体験を実施した。 オンラインを活用しての、行事の説明会、新入生保護者会等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の授業への活用の促進、特に研究推進校である国語科で活用の研究と情報発信に努める。 不登校生徒とのコミュニケーションツールとしての活用方法を模索し実践する。
6	健康指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> 「健康教育」「安全教育」の指導の定期的な実施 自らの健康意識の向上にかかわる取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 主任会(週1回)、職員会議(月1回)で情報交換をきめ細やかにし、生徒の健康安全について共通理解を図った。 薬物乱用防止教室、熱中症予防についての学級指導を実施した。 感染症防止に向けた取組をガイドラインに則って実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康・安全に関する取組を途切れることなく継続して実施していく。 危機対応マニュアルの改善と職員会議等での教職員への周知を図る。
7	保護者・地域との連携や積極的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した学校行事等の実施 情報の積極的な発信 コロナ禍におけるPTA活動に関するPTA役員会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、体育祭、栗糰祭(バザー)等、地域、保護者と連携した学校行事は実施できなかった。次年度もコロナ禍が完全に解消するとは思われず、実施方法、時期等を検討する必要がある。 PTAの広報誌、学校だより、学年通信等を定期的に発行し情報発信に努めた。 コロナ禍におけるPTA活動の縮小等について、PTA役員会で意見交換し、各家庭への理解を求めた。また、臨時休業中の学校の状況について共通理解し、円滑な再開に協力を得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事における地域・保護者との連携については、感染症の状況を見ながら、実施の有無、実施方法等について、柔軟かつ的確に判断していく。
8	働き方改革の視点での業務改善と意識改革 <ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務時間に関する意識改革のための研修の実施と面談の実施 会議時間短縮のための校務支援システムの活用と提案内容の簡潔化や削減 登下校指導や不登校生徒・保護者との関わりに関する検討 	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間が多い教員と面談を重ね、教職員の意識改革に努めた。超過勤務時間について少しずつ減少傾向にあるが、成績処理の期間等、月によっては80時間を超える教員がいる。 会議については校務支援システムの活用や提案内容の簡潔化に取り組み、会議時間の短縮を実現した。 教職員の働き方改革、特に勤務時間について、保護者・地域に積極的に情報発信をした。不登校生とへの対応や登下校に関する教職員の勤務等について、引き続き理解に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間の多い教員との面談を継続して実施する。 校務分掌等、教職員の役割分担について見直しをする。 教職員の働き方改革についての地域・保護者への情報発信を次年度も実施する。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けて
学校教育推進会議(今年度はPTA役員会で代替)を2/25に開催し、川崎市立中学校学習状況調査の調査結果をもとに本校の生徒の状況の現状と今後の課題について協議した。本校生徒は、学習への意識、自己肯定感ともに川崎市全体の状況と比較すると良好な状況ではあるが、今後も各教科の授業改善や生徒主体の活動等の取組を推進し、さらなる向上に努めていくことを確認した。また、コロナ禍の学校と地域・保護者との連携のあり方について、今後も建設的に取組を進めていくことを確認した。	コロナ禍の臨時休業等による学習指導の遅れに対し、教育課程を柔軟かつ的確に編成し、学習内容について次年度に積み残しなく指導することができた。学習に対する生徒の意識については、学習に対して「好き」「わかる」「生活に役立つ」という意識について、いずれも川崎市全体の状況と比較すると良好な状況にあり、引き続き授業改善に取り組んでいきたい。特に川崎市の研究推進校として研究を進めている国語科を中心に、授業改善、学習評価に関する研究を進めたい。また、自己肯定感に関する質問「よいところがある」「将来の夢や希望がある」「役立つ人間になりたい」「失敗をおそれず挑戦する」についても川崎市全体の状況と比較すると良い状況にあり、これまでの教育活動を維持し、改善していきたい。 働き方改革については、時間外勤務時間の削減に向けて、文部科学省の通知や川崎市の方針に即して取組を推進する。また、GIGAスクール構想に基づき、学習支援等、一人一台配布されるタブレットの様々な活用方法を模索、実践する。